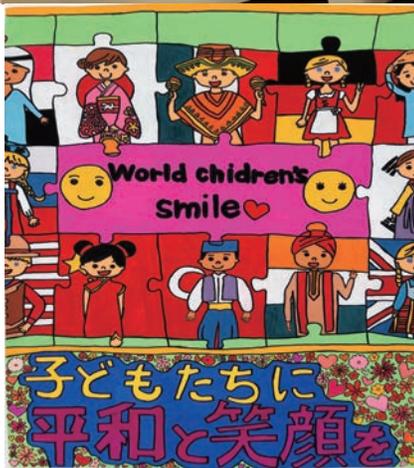


文部科学省後援 第47回全国小中学生ポスター・作文コンクール 優秀作品展・表彰式



第46回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展が2月14日から2月27日まで、東京・市ヶ谷のJICA地球ひろば2階ギャラリースペースで開催された。文部科学省、世界連邦宣言自治体全国協議会が後援。

表彰式は、2月23日、JICA地球ひろばセミナールーム600で行われ、入選した児童、生徒、父母や親族など約80名が全国から出席。日下部理事長が文部科学大臣賞状と副賞(トロフィー)、及び海部俊樹会長賞状と副賞(特賞:楯、



文部科学大臣賞 綾部市立八田中学校
2年 能勢友奏

湯川スミ賞:ブロンズ、入賞:楯、佳作:メダル)を授与した。今年はポスターが101校1,179点、作文は47校1,101点の応募があった。

当日は快晴に恵まれ、受賞した生徒たちの誇らしげな表情であふれた。

税所涼子審査委員長からは文部科学大臣賞を受賞した作文に対して「世界の恒久平和と人権擁護の担い手になれるように学業に励みたいという決意が力強く表明されている」という講評があった。

(大津 智史)

作文の部・文部科学大臣賞 「私と世界を変える教育」

東京都立白鵬高校附属中学校3年 山田 佳怜

私が英語を本格的に勉強し始めてから3年が経つこの夏、私は力試しとばかり、マララ・ユフスザイさんが2014年にノーベル平和賞授与式で行った講演の原稿を読んでみた。「なぜ戦車をつくることは簡単で、学校を建てることは難しいのか」。当時大きく報じられたこの講

演は、多くの人の脳裏に焼き付いているのではないかと。ただ、報道では抜粋が紹介されたに過ぎない。辞書を引きつつも原文で読解できる喜びも束の間、読み進めていくうちに引き込まれ、気が付くと、訛りの強い彼女の肉声の録音を繰り返し聴いていた。

世界各地でテロが絶えず、多くの一般市民が巻き添えになっている。テロリストらは、自己の正当化のために宗教団体の体裁をとることが多い。近年、イスラム教原理主義を名乗る過激派組織に関する報道が目立つこともあり、イスラム教に対してほとんど無知な私は、何

とも恐ろしい宗教である、という先入観に囚われていた。しかし、マララさんはテロリストたちに対して、このようにも語り掛けている。「コーランの中でアラの神は『1人を殺す事は全人類を殺すことと同じ』と説き、ムハンマドは『自身を傷つけるな、そして他人にも』と語っている。こうした言葉をあなたたちは忘れていないか」と。イスラム教にこうした教えのあることを私は知らなかった。平和を望む気持ちは私たちと同じである。このコーランの一節などは、私のイスラム教や文化に感じていた距離感を急速に縮めるきっかけとなった。

マララさんは、普通の私たちの生活からは想像もつかないような、紛争地域の悲惨な現実について、悲痛のこもった口調とともに語っている。パキスタン北西部の国境地帯では、四百以上の学校が破壊され、女性教師は研究者を筆頭に、多くの罪なき人々が虐殺されたという事実。もっとも印象的だったのは「教

育は権利ではなく罪になりました」と言う一文である。女子教育を禁ずる反政府勢力タリバーンが実効支配することとなった日から、これまで彼女がごく当たり前に行ってきた、学校に通い、そして学ぶことが犯罪行為となってしまったのである。

悲惨なテロや暴力に関する生々しい描写を伴う講演の中にも、マララさんは軽妙なジョークを織り交ぜている。「まだ弟たちと喧嘩するようなノーベル平和賞受賞者は、私が初めてでしょう。世界が平和になってほしいとは願いますが、私と弟たちとの間においては、それはまだしばらく先のことです」。兄のいる私には、この痛快なユーモアのおかげで彼女の人柄をぐっと身近に感じるようになった。史上最年少でノーベル平和賞を受賞し、世界中の全ての子供たちが質の高い教育を受けられるよう闘っているマララさんは、まだあどけないひとりの少女でもあった。2012年10月にスクールバスで下校中、反政府勢力タリ

バーンがむけた銃に頭を撃たれた当時、彼女は、私と同じ十五歳であったことから、これは当然なのではあるが……。

講演からひしひしと伝わってくることは、学ぶことへの切望である。国家や戦争と、教育の間に存在する関係を巡っては、古今東西を問わず、悩ましい課題が横たわっている。ただ、時間こそ掛かるものの、宗教や民族に関わる問題を含む、世界に山積する課題を着実に解決方向に導く数少ない方法もまた、教育をにおいて他にはないのではないか。

私自身もこれまで国が義務として提供してきた教育を終え、来春には高校生となる。戦後70余年、一貫して平和を享受し、学校に通うことのできる日常に改めて感謝したい。そして、よりよい未来を築き、世界の恒久平和と人権擁護の担い手としてマララさんの後に続くべく、まさに「ペンは剣よりも強し」ないし“Education First”の精神で、学業に励むつもりである。

作文の部・特賞 「Think globally, act locally」

富士宮第一中学校3年 白鳥 心咲

「平成三十年七月豪雨」。甚大な被害を及ぼし、いまだ避難生活を余儀なくされている多くの人々がいる、西日本の豪雨はこう名付けられた。現在、日本、いや世界中で、これまでに例がないような異常気象が起きている。今、地球規模で環境問題を真剣に考えなければならぬ時が来ているのではないか。

一昨年、私は初めてハワイを訪れた。「静岡こども環境大使」静岡県と静岡新聞社・放送による環境保全活動である。ハワイ滞在は八日間。英語でのプレゼンテーション「知ること～ウミガメ編～」では、生きた化石とよばれるウミガメの絶滅の危機、その頭数は十年間で六割減ったという事実を伝えた。原因は人間が海に捨てたゴミ。しかし、牧之原市のウミガメ保護団体の合宿では「ウミガメは地域によってはむしろ増加。必ずしも絶滅する方向とは言えない。高知県では、食べてもいいウミガメの頭数がきまっており、生態系のバランスを整えている」と知り衝撃的だった。ウミガメを食べることは解

剖することであり、生態に謎の多いウミガメを知ることにもなる。これはウミガメを保護する方法のひとつであり、簡単に物事を判断することができない難しさを知った。

このように、ウミガメが増えている地域もあるという事実を知らなければ保護することにはつながらない。正しい現実を「知ること」はウミガメや他の生物や環境を「守ること」につながるのだ。

実際にハワイの人にも「日本ではウミガメを食べる」という事実を伝え、「ハワイではウミガメを食べる文化はあるのか」を聞いてみた。すると、「食べる文化はない。なぜならウミガメは昔から人々の守り神として大切にされてきたから。食べる発想は考えられなかったが、良いアイデアだ」という柔軟な意見をもらった。また、「ハワイではウミガメをどのように保護しているのか」との問いには「ウミガメに触れてはいけない」などの厳しい法律があり、さらに「ウミガメが命を落とす原因となるビニール袋はスーパーでは完全に廃止されてい

る」と聞いた。日本ではそこまで徹底されていない課題に気づいた。

同じ問題について一緒に考えることで、国際的な視野が広がった。多様な文化や人の考え方があり、様々な角度でものを見て総合的に判断することが必要。一つの考えやデータだけでは判断できないと実感した。

「知ること」は「守ること」。これは地球規模の平和にも通じることだと考える。世界で発生している異常気象を始め、水不足で苦しむ人が七億人いる。この現状は平和とは言えない。また、戦争が続いている国もある。お互いの文化の違いや考え方を巡っての争い。戦争を防ぐには互いの国の文化や考え方を理解することが大切だ。それが国際理解へとつながるのだ。まずは「知ること」。それが環境や平和を「守ること」につながる。人間同士も動物も幸せに共存できる未来のためには必要な事だ。

環境大使として一緒に活動してきた先輩で、現在「高校生平和大使」の活動をしている方がいる。この活動は全国の

高校生から被爆地長崎の悲惨さを世界に発信し、核兵器廃絶と平和な世界の実現を目指そうというものだ。平和に関する署名活動やディスカッション、長崎やスイスジュネーブ国連本部の訪問な

ど、世界を舞台に訴えている。高校生でありながら、世界規模の課題に果敢に挑む姿は私の目指すものである。

環境大使活動でのウミガメの調査・研究・取り組みから感じ考え気づいた

視点。これは、今回の「平成三十年七月豪雨」を含めた世界中に巻き起こる異常気象を改善する事、戦争なき平和な世界を目指すことへつながると信じて、私ができることから始めたい。

作文の部・特賞 「平和を誓い続ける」

大館市立有浦小学校 6年 半田 一貴

昨年、何気なく見ていたニュースが、ある人の死を一枚の写真と共に伝えていました。それは背中が赤く焼けただれた少年の写真でした。戦争に無関心だった私には、とてもショックな一枚でした。彼の名は谷口稜嘩さん。七十三年前一六才の彼を原爆が襲ったのです。しかし、多くの命が犠牲になる中、彼は命を取り止める事が出来ました。それは同時に一生背負い続けなくてはならない苦しみを抱える事となったのです。どれだけ時間が経っても、医学が進歩しても治ることのない背中。もし私がそのような体験をしたのなら、きっと誰にも話したくないでしょう。なぜなら、言葉にす

るたび、その辛い過去が蘇るからです。しかし彼は自分の背中を見せ、原爆のむごさ、戦争の悲惨さを話し続ける事が生かされた自分の使命だと言っていました。私は以前読んだ「お話しかせてクリストフ」という本を思い出しました。内戦がおこる母国から英国に渡った主人公は、お話は文章の中へ閉じ込めてはいけなと、辛い過去も自分の言葉で語る事で、過去を乗り越えていくというお話です。彼もまた、そう思い行動した一人だったのでしょ。

しかし、この必死な訴えも国や世界には響かないのでしょうか。平和宣言で広島市長も核廃止と日本の役割につい

て述べていました。核の傘の下にある日本は核廃止を実現出来るのでしょうか。結局、戦争で学んだ事は、何だったのでしょうか。他人より優位でありたい、まだ足りないと思う心が平和を遠ざけてしまうのかもしれない。

七十三年前にあった戦争で今もなお苦しみに続けている人がいる。その苦しみを私は分かろうとしたいと思います。彼が伝えようとした平和への尊さを忘れてはいけません。毎年八月には、戦争を過去のものにしないよう、何度でも平和を誓い続けようと思います。

作文の部・特賞 「ねえ、聞いて!!」

上野小学校 3年 佐野 史恩

「ねえ、かく兵きはいぜつ運動って何の事？」 スーパーで見つけた紙を見て、お母さんに聞いた。

「原子ばくだんとかを作ったり、持つことをやめようって運動で、地球からかく兵きをなくしましょうって事。しょ名の紙だから同じ意見の人は名前を書くんだよ。」

ぼくは、まだかく兵きがこの地球からなくなっていないのがふしぎだった。

「作っちゃダメ! 持ってちゃダメでしょ!!」大きな声が、心の中にひびいた。

花火のざい料とは、全ぜんちがう。かんとんに作れないのに、どうしてなくな

らないんだらう。だれかが持っているから、持ってもいいと思うのかな?

ざい料があつて、つくれちゃうから? だれかにやられるとこわいから、持っていたいのかな?

なぜ、かく兵きがダメなのか、なんでもきめられる人達だったら、みんな知っているはずでしょ?

人・生き物・植物がみんな死んじゃつて、空気や水もよごれちゃつて...地球が死んじゃうって事だよ。それっていけない事でしょ?

平和って、みんなが幸せで、元気にくらせる事。ごはんを食べたり遊んだり、

ぐっすりねむったり...。この中でかく兵きなんかひつようだと思う?

なんでも、小さな事から始まる。ぼくも、小さな事から始めてみよう。

「かく兵きを、なくしてください!!」ぼくは、そういうものがない世界に生きたい!!」と、大きな声でさげびたいくらいの気持ちで、自分の名前を大きく紙に書いた。

どんな小さな事でも、それがふうせんみたいに、大きく大きくなって、世界中のみんなにつたわっていくといいな。

作文の部・湯川スミ賞 「いろんな所に目を向けて」

加古川市立神吉中学校 1年 岸本 真鈴

私が、戦争・平和について考えをもったきっかけとなった絵本があります。そ

の絵本はザックリ言うと、今自分がラーメンを食べているとき、他の国の小さな

男の子は激しい戦地の中で倒れている、という内容の絵本です。この絵本を

読んだ後に友達と楽しい話をしても、友達と遊んでも、楽しいけど気分がのらないような気がしました。セミが鳴いたり笑い声が聞こえたりする所で、こんなに楽しんでいいのか、とも思いました。

私にとって明日が来るのは当たり前の中で、明後日も一年後も必ず来ると思っています。でもそれは、今の日本に大きな争いや、命に危険があるようなことが起きていないからだ、私は思います。ですがもし、今の日本が少し前の時代のように、どこへ行っても戦場、空から爆弾や焼夷弾が落ちてくるのは当たり前で、それが「日常」だとしたら、そのような考えは絶対出来ないはずで、「明日」を生きるために必死。「今日」を生きるために必死。そんな毎日だと思います。自分の大切な人や、自分の知っている人達がとなりでバタバタ倒れていくのを見れば、きっとどんな人でも正気を失ってしまい、集団で心中してしまう人も少なくはないはずで、戦争は人の命だけではなく、心や温かさまで奪っていくものです。

このような事が日本であったのは過去のことで、一部の国と地域では「今」もこんなに恐ろしい事が起こっています。テレビでよく私と近い歳くらいの少年達が兵士として戦地に行く姿を見ます。本当なら、私達と同じような環境で友達と遊んだり、学校に学びに行ったり、楽しく笑ったり出来るはずなのに、その権利があるはずなのに、とても思います。

戦地に行く少年達はどんな思いで戦地に行くのだろうかと考えたことがあります。私なら、家族や友達と別れ、帰ってこられるかも分からない所に行くのはとても不安だし、辛いよりも何倍も上の感情です。でも、少年兵達は誰一人泣いていませんでした。本当はとても辛いと思います。私は、武力を使った争いでいちばん恐ろしいのは感情を表に出せないことだと思いました。この世に感情を持たない人はいません。だけど、命を奪い合う争いに情けは無く、自分の感情は後まわしです。それが大人の兵だとしても子供の兵だとしてもです。私

は、そこまでして得た幸せは本当に幸せなのだろうかと思議です。

よい世の中になったと言う人も、たくさんいます。だけど私はそうは思えません。確かに、昔と比べれば幸せになった国もあるかもしれませんが、それは一部で、他に目を向ければまだまだ武力の争いで大事な人を亡くしたり、常に死ととなり合わせて恐怖におびえながらくらしたりしている人たちもいるはずで、そんな人達がこれからもそんな日常でくらしつづけていかないといけないなら、人権なんて少しも守られていないと思います。

人が他の動物たちと違うところは、自分の思ったことを言葉で話したり、文章で書いたりするところです。力だけで解決するのなら、他の動物でも出来ます。

戦争の恐ろしさやおろかさを語りついで、そこから学んでいかないと、いつまでも、人権がきちんと守られた「平和」にはなれないと思います。

*受賞作文を掲載するに当たり、編集方針に従って、一部修正を加えた箇所があります。

世界連邦文化教育推進協議会 第五回全国推進大会にて彬子女王殿下がご講義



挨拶する小山芳樹事務局長

平成31年2月18日午前11時から、世界連邦文化推進協議会第五回全国推進大会が帝国ホテル(東京都千田区)にて開催された。

前回に続き、今回も三笠宮家の彬子女王殿下のご臨席の光栄に浴した。今年度は、女王殿下から「日本文化を未来に伝えるために」というお題でご講義(基調講演)を賜った。女王殿下は、三笠宮家の寛仁親王殿下の第一女子として誕生ののち、オックスフォード大学大学

院で日本文化史を専攻され、女性皇族初の博士号を取得されている。

同会の東久邇信彦会長(元皇族、世界連邦運動協会の前身・世界連邦建設同盟第二代会長を務めた東久邇宮稔彦元首相の直孫、母方では昭和天皇の初孫)が体調を崩され欠席されたため、同会の穴野史生理事長(神道扶桑教管長)が会長メッセージを代読、「我々会員一同は彬子女王殿下に敬意を表すとともに、世界連邦の活動がより多くの方々にひろがり、文化や教育を通して国際親善を深め、世界中の人々が平和に向けて手を取り合ってくださいを、心より願っています」とお伝えになった。

続いて、来賓を代表して世界連邦日本宗教委員会の田中恒清会長(神社本庁総長)が登壇された。田中会長は「長い歴史を持つ世界連邦の活動は、それぞれの立場で、世界平和へ向けて活動

をしています。世界連邦文化教育推進協議会においても、文化、教育という新たな視点で、東久邇会長を中心に歩んでこられました。そこで本日は、女王殿下のご講演によって、皆様方が世界平和について今後どのように歩むべきか、ということの指針にさせていただきたいと思います。私ども、世界連邦日本宗教委員会も、戦没者慰霊式典などを、年間を通して行い、先人の努力に感謝をし、真の世界平和実現のために力を合わせて活動しております。そして世界連邦の輪が広がっていくことを祈念し、本日の大会開催をお祝いします。」と述べられた。

女王殿下のご講義概要は以下の通りである。

東久邇のおじちゃまが、私が総裁をしている「心游舎」の活動に共感していただいていることもあり、前回に続きお招

きいただきました。

さて私は、学部時代には、英国の男性スカートのように体にまくキルトのタータン(和製英語ではタータンチェック)がスコットランドの民族意識形成にどう影響を与えたかをテーマにした研究をしていました。このとき日本にはスコットランド史の専門家は少なく、まわりからは、英国のウィリアムズ王子がセントアンドリュース大学で十二単の研究をするようなものよ、と心配もされました。スコットランドでイメージするものは、あまり多くありません。このタータンや、バグパイブぐらいです、それは全てハイランド(スコットランド北側高地地方)のもので、ローランド(スコットランド南側)はイングランドとあまり変わらない生活をしていました。スコットランドとイングランドが併合する際に、ハイランドの服をローランドを含めたスコットランド全体の民族衣装としてしまおうとしました。ラグビーの試合でもわかるように、英国はイングランド、ウェールズ、スコットランドと国が分かれています。日本でいうなら北海道、本州、九州、四国とチームが分かれて対戦しているようなもので、例えば、スコットランドとフランスが戦うときは、イングランドはフランスを応援します。この民族意識にタータンという文化が役割を担っております。

その後オックスフォードへ留学し、日本美術に専攻を変更しました。オックスフォードでは、同じ長テーブルの大食堂で食事するので、異分野を専攻する友人もできました。ケーキをどうやったら分けるかを数学的に延々議論している人がいました。異分野の人には専門用語で話ではできませんので、わかりやすく話すことも覚えました。でも向こうでは、どんな専攻の人でも、自国の文化や歴史について、例えばシェークスピアの話などは誰でもできます。日本で源氏物語の話や外国語を外国人にできる人がどれくらいいるのでしょうか。それが恥ずかしくなりました。自分の国のことをいかに知らなかったかと思い知らされました。また日本ではだれでも寿司が握られるとか、忍者がいるとか思われていることも知りました。そこで私は、ジェシカローソン学長のチュートリアルで、日本文化について学ぶことにしました。まわりの人に

ローソンの学生だというと、I'm Sorry(それはかわいそうに)と言われるほど厳しく、学期は8週間で短いと思いましたが、それでも精根尽き果てるまでになりました。そこでは浮世絵を勉強することにしました。西洋では絵は壁に飾り続けるものですが、日本では掛け軸も季節で変えますし、浮世絵は折に触れて広げてみるものという違いがあります。アイドルのプロマイドみたいなもので、出して見て楽しむものでした。これがのちの美術館でガラスケースの中で飾られるものになるのだとは当時の人は思いもしなかったでしょう。もしかしたら、今の(アイドルグループの)嵐のポスターも、将来美術館で飾られるかもしれませんね。西洋と日本では美術を見る目が違っているということがわかりました。そこで西洋人は日本美術をどのように見ていたのかをテーマに博士論文を書きました。博士課程時代には、大英博物館でも研究しましたが、そこには学者・作家・文化財団・美術館長などもよく訪問されて、その方々と話すことで、とても勉強になりました。文化財は守らないといけないという問題意識は共有されましたが、それぞれの背景がバラバラで、時代や行政のせいにして残念でした。

帰国後は京都に行きました。そこでは、文化財が失われつつあることについて切実な思いを持ちました。竹細工など生活に密着したものも、籠一個で家一軒たつほど高価なものです。これでは中々竹細工の製品を買おうとはしないでしょう。需要と供給があるので、文化を守る環境や土壌を作らないといけないと考えるようになりました。なぜそれが大切なのかということ伝えることも大事です。本来文化は生活と密着したものなのに、美術館で見ただけで済ませ、非日常的なものになっています。お茶を習われているかたも、稽古でしか飲まず、家では飲まないということで、非日常になってしまっております。生活から切り離されてしまっているのです。そこで、日本文化は生活の中で息づいていないといけないと考えました。ただ鑑賞するだけではなく、体験型ワークショップを開催する活動を目的に心游舎を設立しました、例えば、「三日坊主」

という名前をつけてお寺で三日間生活をしながら伝統文化の体験をするワークショップもしました。ここで初めて雑巾を絞る経験をしたという子供もいました。着物や和菓子や漆器を使う生活に関わることもそうですが、ほかにも、お能から釘打ち技術まで、様々な体験をしてもらって、それがどんな凄いことをわかってもらい、記憶に残してもらいます。その楽しかった経験などの記憶の種をまけば、今後思い出して役立ち、これが日本の文化を残していくことにつながります。子供はよく「なんで?」と聞いてきますが、この興味目を摘まないようにすることも大切です。考えることをやめてはいけません。自分の父も、私に納得いくまで説明をしてくれました。祖母にも「なぜ皇族は帽子をかぶるのか?」と聞きました。それは日除けのためだと答えられました。そのため一般参賀でも皇后陛下は帽子をかぶられません。皇居は自分の家であり、外ではないからです。また、「なぜご飯を茶碗で食べるのだろうか?」とか考えたことはありませんか。茶碗は石偏ですが、本来は飯椀というものがあります。これは木偏です。でも木製の漆の飯椀は高価なので、安価な焼き物が出回り、茶碗でご飯も食べるようになったそうです。でもやはりご飯は、熱伝導率の関係で、本当は漆の飯椀の方がおいしいのです。みなさんも、ぜひ試していただきたいと思います。こういったことも生活の中でわかることです。「なぜ」という理由がわかれば、心に残ります。伝統の「統」は糸偏です。これに対して仏教用語では「火」を偏にした「伝灯」という言葉があります。もともとは比叡山で師匠から弟子に、灯をたやすことのないように、教を長く伝えていく、という意味だそうです。油断大敵という言葉もこの灯の油を絶やさないとということです。私も、文化を灯のように伝えていく活動を続けていきたいと思っています。

以上のお話しは、ワークショップの映像など挿入されたほか、ユーモアや、豊富な事例をたくさん交えられて、とてもわかりやすいご講演であった。女王殿下が、「文化を生活に取り入れながら残していく」という、ご熱意の溢れる具体的

な活動をされていることに、大変感銘をうけた。

このあと、女王殿下の「心游舎」文化基金のチャリティーバザーを兼ねた午餐懇親会が開催された。女王殿下も来賓の長谷川祐弘元国連事務総長特別代表たちと一緒にテーブルを囲み、文化のお話からSDGs(持続可能な開発目標)にいたるまで話題が広がり、和やかに歓談がなされた。長谷川元代表と小生からは女王殿下に国連のSDGsメダルを献上させていただいた。

世界連邦というものは、世界を一つにすることである。しかし、それは世界が覇権国によって全く同じような形に統一してしまうことではない。それではかえって反発を生み、世界連邦実現の阻害要因になる。それぞれの地域や民族には、それぞれの歴史の連続性が生み出した文化がある。もちろん日本にも世界に誇れる文化がある。それらは、政治や経済のグローバリズムとは別に、その民族が大切にしている文化を尊重して残していくことも、世界中の共生社会を推進

し、世界連邦実現を可能にする要素である。

(谷本 真邦)



会場となった帝国ホテル

第35回世界連邦日本大会を5月26日東京で開催 WFM共同代表、ノーベル平和賞受賞ICAN国際運営委員が登壇 ネットで配信も

名 称：第35回世界連邦日本大会
2019 in 東京

趣 旨：今回の大会では、東京の若者を中心とする三つの支部が力を合わせ、海外よりWFMの共同会長を迎えるとともに、大会の様子をインターネットで世界に発信するなど、新たな取り組みに挑戦します。70年以上の歴史を持ち、衆参両院で世界連邦の決議も行った日本の世界連邦運動を、国内はもとより世界にアピールする機会にします。

日 時：2019年5月26日(日) 13:00～16:30(受付開始12:30～)

会 場：JICA地球ひろば2階 国際会議場

住 所：東京都新宿区市谷本村町10-5
アクセス：JR/地下鉄「市ヶ谷駅」より徒歩10分

定 員：150名(先着順・事前申込制)

参加費：1,000円

【プログラム】

開会、黙とう、基調講演、大会宣言
(同時通訳あり・講演動画のweb配信を

予定しています)

登壇者(仮)

フェルナンド・イグレシアス氏
(WFM-IGP共同会長)

川崎哲氏(ICAN国際運営委員・2017年
ノーベル平和賞受賞)

登壇者プロフィール(仮)

フェルナンド・イグレシアス氏：WFM-IGP(世界連邦運動世界本部)共同会長。アルゼンチンの政治家。1957年生まれ。バレーボールコーチ、教師、ジャーナリスト、作家などを経て、プエノスアイレス自治都市国家副代表などを務める。市民組織「グローバル民主主義-南米連合と世界議会のための運動」創設メンバー。COPLA(Coalition for the Establishment of a Latin American Criminal Court Against Organized Crime)のキャンペーン指導者。WFMの2018年度世界大会(Congress)にて共同会長に選任される。

川崎哲氏：ICAN国際運営委員。1968年生まれ。東京大学法学部卒業後、NPO

ピースデポ事務局長などを経て現職。2017年にノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員を務める。著書に『新版核兵器を禁止する』(岩波ブックレット、2018年)、『核拡散』(岩波新書、2003年)。共著に『殺人口ロボットがやってくる?!』(合同出版、2018年)、『イマジン9ー想像してごらん、戦争のない世界を』(合同出版、2007年)などがある。

【申込方法】

支部毎にとりまとめて大会事務局までメールでお申込ください。

個人でお申込みの際は、以下のWebフォームよりお申込ください。

<https://goo.gl/A52JTZ>

【主 催】

世界連邦推進日本協議会(構成団体：世界連邦運動協会・世界連邦日本国会委員会・世界連邦宣言自治体全国協議会・世界連邦日本宗教委員会・世界連邦日本仏教徒協議会・世界連邦文化教育推進協議会)

【企画・運営】

欧州議会 国連議員総会と2020年国連改革サミット要請を決議

2018年7月5日、欧州議会は、採択された決議の中で、EU政府に対し「国連議員総会(UNPA)」設立を提唱し、国連を一新して強化するための包括的改革措置を検討する「UN 2020サミット」を支持するよう求めた。

欧州議会によれば、①グローバルガバナンスの民主的特徴を伸ばし、説明責任や透明性を高め、国連活動への市民参加を促進するために、国連システムにUNPAを設立すべきであること、②国連アジェンダ2030(持続可能な開発目標)を遂行させることに貢献すること、③9月に開始される次回の第73回国連総会で、UNPA創設を提唱すること、以上三点をEU28加盟国の代表に要請した。

UNPAの呼びかけを開始した欧州議会議員のJo Leinen (S&D:社会民主グループ)は、「国連は、より開放性があり、より強い民主的基盤を緊急に求めている」と述べ、「したがって、欧州議会は、国連システム内に国連議員総会を設置するよう要求する」とし、「EUおよびその加盟国は、この革新の実施において積極的な役割を果たすべきである」と付け加えた。

EUの国連政策に関する今年の勧告について欧州議会報告をしたEugen Freund (S&D)は、彼が最初に40年前に国連改革に遭遇して以来、「残念ながら、あまり変わっていない」、「総会は多くのメンバーからなるが、選出(民主的)プロセスを経ていない外交官の集まりである。したがって、それが意思決定プロセスを合理的にするかどうかはまだわからないが、選挙で選ばれた国会議員が最終的に補完するという考えは、非常に魅力的なものだ」と述べた。

議会の外交委員会がUNPAの要請を支持する者も多くなってきた。さらに、こ

の欧州議会の決議は、モザンビークの国会議員であり、アフリカ連合の汎アフリカ議会議員でもあるIvone Soares氏によって歓迎された。同氏は、「欧州議会、汎アフリカ議会、ラテンアメリカ議会の決議により、国連議員総会の創設を検討する時期が到来した」と語った。

また、スイス国際評議会のメンバーDaniel Jositsch氏は、「国際協力の深刻化する危機は、地球規模の問題と戦うための新しい方法を見いださなければならぬことを示している。したがって、欧州議会は欧州諸国に対して発言を求めている。国連議員総会の創設に賛成し、彼らがこの目的に単に言葉を捧げるのではなく、具体的な実施措置が講じられていることが重要である」と述べた。

WFM(世界連邦世界本部)共同会長に選出されたばかりの、アルゼンチンの政治家Fernando Iglesias氏は、以下のように述べている。「より平和で公正で民主的な世界を支持する多くのイニシアチブから、国連議員総会の創設が確実なものになる。この提案に対する、欧州議会の最近の支持は、最も重要な超国家的議会組織のメンバーがしている。」

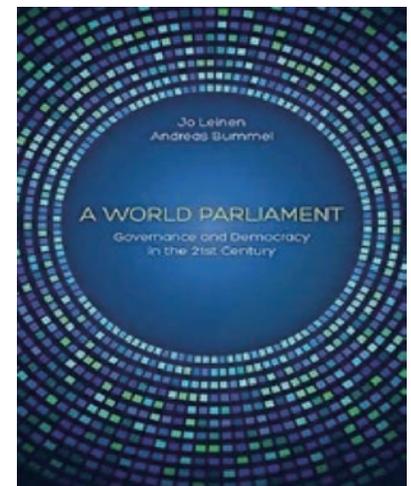
Jo Leinen氏、Ivone Soares氏、Daniel Jositsch氏、Fernando Iglesias氏らの賛同者は、選出された1500人を超える代表によって承認済みの「UNPAのための国際キャンペーン」の議会諮問グループの共同議長でもある。

また、キャンペーン事務総長のAndreas Bummel氏は、欧州議会のUNPAに関する要請は「多国間主義が攻撃されているときの、大胆かつ重要な一歩」であると述べ、「国際連合と世界の民主主義を守り、強化することに関

心のある政府は、世界機関の民主化のために緊急に取り組むべきであり、国連議員総会はこれを達成するための鍵である」と付け加えた。

最近、アイルランドの外務大臣Simon Coveneyは、「アイルランドはUNPAの提案に対してオープンマインドである」と述べた。EUの国連政策に関する欧州議会決議は、とりわけ「国連創設75周年を記念して、国連総会で、国連議員総会設置を、国連2020年サミットのための開かれた包括的政府間準備プロセスに位置付けること」を推奨している。その主張は最初にした目的である「国連の革新強化のための包括的改革措置」を検討していくものであろう。

以上は、Andreas Bummel事務局長がThe Federalist Debate2018年11月号に寄稿した記事を参考にした。



A World Parliament Jo Leinen・Andreas Bummel共著。世界会議の歴史的背景・提案、民主的な世界統治について書かれた本。2018年4月発行。

(谷本 真邦)

2019年豊中支部 新年会

1月8日(火)、ホテルアイボリーにおいて、65名の皆様にご参加いただき、恒例の豊中支部新年会を開催いたしました。

ご来賓20数名を代表して、長内繁樹豊中市長、中野寛成世界連邦運動協会会長代行、大塚高司国土交通副大臣夫人、うるま譲二・中井源樹両府会議員、喜多

正顕市議会議長よりご挨拶を賜りました。

皆様のご挨拶は、世界中でテロや紛争がおこり、大国の利害がからみあい不安定な世界情勢の現在、唯一の被爆国である日本が核兵器廃絶と世界の平和を唱え続けていくことの意義と、世界連邦運動協会の活動の重要性を説かれておられ、大

変心強く、勇気づけられました。

今後も世界連邦運動協会豊中支部会員一同は、皆様のご協力をいただきながら地道に世界の平和を唱えて行きたいと思っております。

(豊中支部 支部長 星野 慎一)

2019年度定例総会招集告知

下記のごとく世界連邦運動協会2018年度定例総会を開催しますので、ご出席ください。

日時：2019年4月27日(土) 午後1時～午後4時30分

場所：JICA地球ひろばセミナールーム600

東京都新宿区市谷本村町10-5

議題

- ①2018年度会務報告に関する件
- ②2018年度決算・監査報告に関する件
- ③2019年度運動方針・活動計画に関

する件

- ④2019年度予算に関する件
- ⑤理事・監事選出に関する件
- ⑥支部提案
- ⑦その他

<注1> 総会は支部および団体会員から選出される代議員と役員によって構成されます。会員はオブザーバーとして出席することができますが、会場の席数に限りがありますので、出席を希望される方は予め申し出ください。

<注2> 支部提案のある支部は支部

名、提案題、発表者名を4月20日までに事務局まで送付してください。説明を簡明にして、所要時間節減にお努めください。特に4月19日の執行理事会より前に提出いただくと、事前に執行理事会で話し合い、深く検討することが可能になります

<注3> 「JICA地球ひろば」の最寄駅は市ヶ谷 地図

<http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

本部と支部の主な動き *は、本文・支部主催ではないが、世界連邦運動に関係のある行事を意味する

*2月25日 国際連帯税アドバイザーチーム立ち上げ

3月10日 大阪愛善会支部 木戸寛孝常務理事講演会

*4月12日 賀川豊彦関係団体連絡協

議会

4月13日 世界連邦21世紀フォーラム

総会

4月19日 世界連邦推進日本協議会

第1回理事会 午後2時～午後4時半

衆議院第二議員会館第四会議室

4月27日 2019年度定例総会

5月26日 第35回世界連邦日本大会

2019 in 東京

編集後記

☆東日本大震災から8年が経ちました。被災された方々が心穏やかに過ごせることを祈ります(大津) ☆国連議員総会について専門家・研究者が提唱しているのみならず EU 議会、汎アフリカ議会、ラテンアメリカ議会が正式に決議していると知り、驚いた。さらなる支持拡大に努めたい。(塩浜) ☆平成という元号には「国の内外、天地とも平和が達成される」という意味がある。新たな元号も、世界に通用する、普遍性のある願いを込めたものであってほしい。(平口)

編集委員会 / 委員長：大津智史 副委員長：塩浜修・平口哲夫 委員：荻野忠則・村上智規・谷本真邦

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円